

2学期は力を伸ばすとき

2学期は一年のうちで最も長い学期です。行事も数多くありますが、落ち着いてじっくりと自分の課題に取り組める時期でもあります。なんとしてもこの学期中に、皆さんに力をつけてもらいたいと思います。そのために大事なことは何でしょうか？

ヒントになる話をします。

まず第一にプラスのパワーをためる

「プラスのパワーをためる」とは、自分にとってベストな流れをつくるということ。そのためには、目の前にあることに一所懸命打ち込むことです。難しいことをする必要はありません。

例えば、毎朝起きた時に家族にあいさつするとか、身のまわりを片づける、笑顔でいることなど、善い行いをひとつでも、少なくとも一か月間は続けるというようなことです。すると、良いことが起こるようになります。

何がどうつながって良いことが起こるのかとか、そんなこと信じられないと考えるのではなく、「ああ、そうなんだ」と思って、すぐに実行してみる素直さが大事です。「そりゃ、そうできればいいけれど……」といいながら、いつまでも実行しない人は、この効果を実感しにくいと思います。よく言えば素直で、悪く言えば単純なのが功を奏すのかもしれませんが。

幸運の女神は誰に微笑むか？

ではもう一つ、

将棋で有名な米長邦雄氏の著書『生き方の流儀』に、幸運の女神に微笑んでもらうには、目前の事柄に一所懸命になることだというお話があります。将棋の対戦においては、たとえ消化試合であっても全てをさらけ出して全力で戦うことが、結果的に幸運の女神を好かれることになるのだそうです。逆に、消化試合だからといって手を抜いていると、どんどん勝ち運が遠ざかっていくのです。

これは将棋などの勝負の世界だけでなく、政治家でも、サラリーマンでも自営業であっ

てもです。私のような学校の教員でも同じです。教師には教師の本分というものがあります。その本分を大切にすることが、運を呼び込むことにつながるのだと思います。

さて生徒である、皆さんの本分は何でしょうか。勉強？クラブ活動？お手伝い？あいさつ？何であって同じで、全てに通じることです。

2学期の目標は良い言葉遣い

始業式で話したことを再度繰り返します。

夏休みの間に私は常陽中学校の先生一人一人と話をする時間をつくりました。いろんな先生と話をする中で今常陽中生徒に欠けているものとして「言葉遣いが悪い」ことを指摘する先生が複数いらっしゃいました。私も全く同感です。何とかしなくてはという思いが強くなりました。例えば、先生に話しかける時に友達を呼び止めるような言葉であったり、ひどい場合には呼び捨てにする人がいます。このような言葉遣いは社会では通用しません。学校も社会の一部です。先生に対してだったらかまわないだろうということにはなりません。特に3年生はあと半年で進学や就職の面接があります。今のうちから必ず目上の人に対する言葉遣いに改めて下さい。

言葉は自分の考え・思いを他者に伝える大事なツールです。言葉遣いが悪いといくら優れたアイデアを持っていても、他者に受け入れてもらえず、門前払いされます。その時点で「アウト」です。

ただ、生徒の皆さんだけに言葉遣いを直すように求めるのではなく、私自身を含め先生方にも改めるべきは直してもらいます。すでに先生方にはその旨お願いしています。

一学期末からいろんなお客様が学校を訪問されています。口々に「常陽中の生徒は礼儀正しいですね」と何度かお褒めの言葉をいただきました。しかし、はっきり言ってダメな人も数多くいます。

今から一人一人が注意し、格調高い言葉遣いができるようお互いに努めましょう。